

《特集!》 環境に配慮した取り組み ～パート2～

《森ざわ・道ざわ》 ◆定点写真調査より



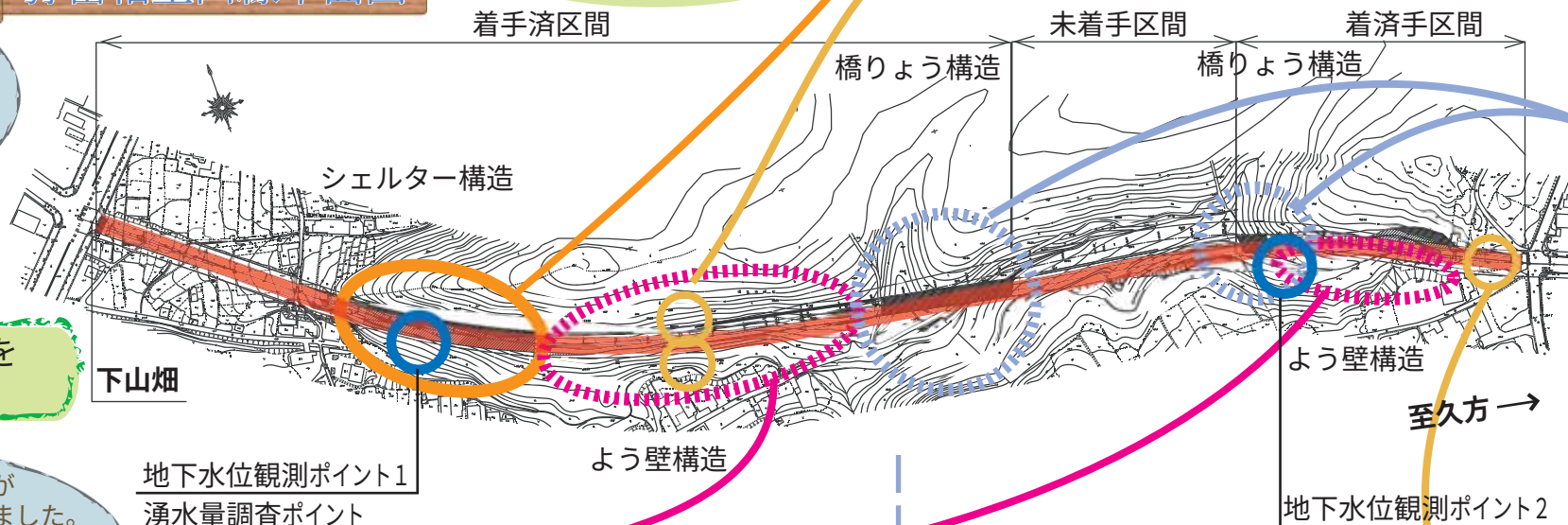
平成 19 年 5 月



平成 25 年 5 月

森ざわ・道ざわの植生が徐々に回復しています。

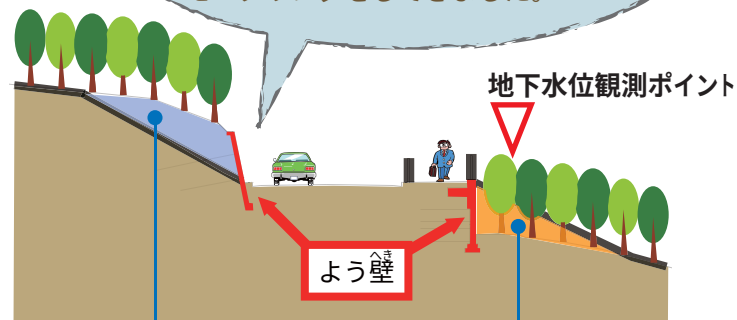
弥富相生山線平面図



《よう壁構造》

緑地の改変を最小化

切土・盛土による大きな法面が生じる場所の改変面積を小さくしました。こうした配慮の効果を検証するため、工事によって地下水や湧水に影響がないか、モニタリングをしてきました。



よう壁の採用により改変を回避できた部分

よう壁の採用により改変を回避できた部分

現地のように



地下水水位調査



《シェルター構造》

森の緑を復元
(植生回復→緑地の連続性)

※シェルター構造上部は、工事後に覆土・植栽し、現在では毎年、ヒメボタルの飛翔も確認されています。

◆コドラート調査より (工事区域周辺の林床部植生変化)

北側 平成 19 年 5 月



平成 25 年 5 月



道路の北側は林床まで光が差し込むようになりましたが、林床にもともと生育していたソヨゴ・カクレミノ・ヌルデなどの植物が成長することによって、あらたな林縁部の形成が期待できます。

南側 平成 19 年 5 月



平成 25 年 5 月



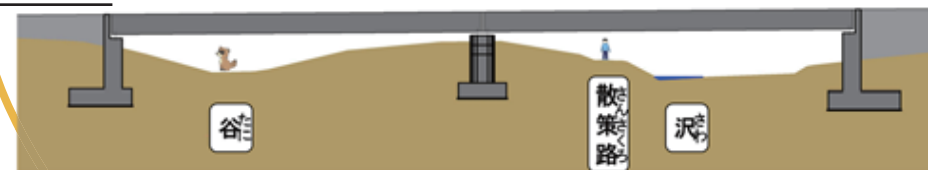
道路の南側は道路工事が進んでも日照条件が変わらないため、もともとの植生に対して大きな変化は見られず、乾燥化も進んでいません。今後も経過を見ていく必要があります。

《橋りょう構造》

- ・沢すじが道路の下を通り、分断されません。
- ・道路の下を中型・小型動物が移動できます。
- ・道路の下を人が通行でき、散策路が分断されません。
- ・生態系の連続性を保つことができます。

⇒中型・小型動物がエコトンネルを利用して移動するかどうかをセンサーカメラで確認しました。

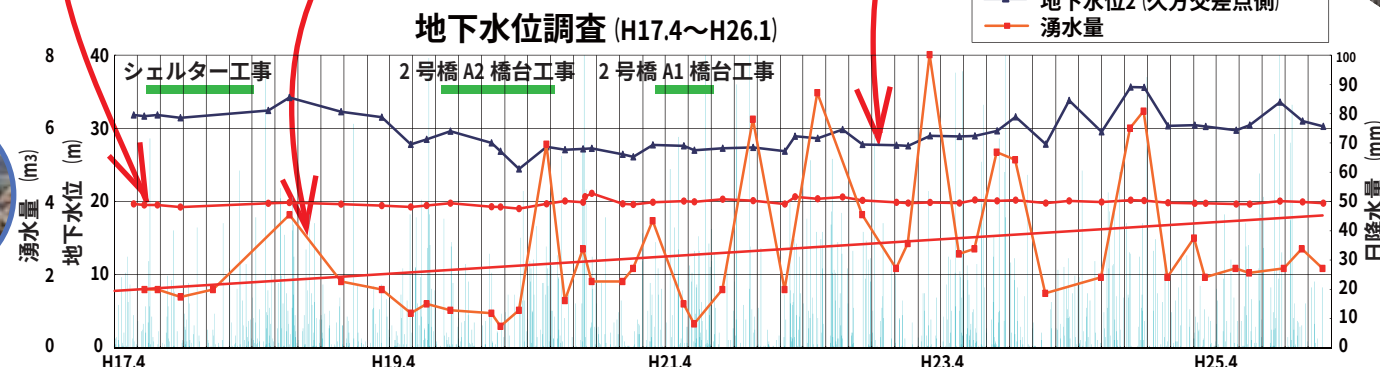
保全対象(沢、散策路etc...)の改変を回避



地下水水位(観測ポイント2)
工事前・工事後ともに大きな変動はありませんでした。工事による影響は今のところ見られません。

地下水水位(観測ポイント1)
工事中、工事後ともに水位変動はほとんどありません。工事による影響はないようです。

湧水量
平成20年度より増加傾向にあります。周辺環境の変化も含めて原因を検討します。



中型・小型動物の移動経路を確保したエコトンネルをいろいろな動物が利用しています。

